

1-(4) 湿地性カラー産地の維持発展に向けて

— 安定生産と出荷期前進化及び新規就農者定着への支援 —

1 活動のねらい

君津地域の特産花き品目である湿地性カラーを今後も維持発展をさせるため、「安定生産と出荷期前進化」と「新規就農者の定着」を目標に活動した。

2 課題の背景

豊富な地下水を活用した湿地性カラーが君津市を中心に栽培されている。全国的にも有数の産地であるが、生産者の高齢化や施設の老朽化で、リタイアや規模縮小が相次いでおり、定植から年数が経過して生産力が低下したほ場や、疫病や軟腐病等により株が衰退するほ場も見られる。また、出荷量が少なく高単価の10月頃からの早期出荷が望まれている。産地を維持するため、安定出荷と出荷開始時期の前進化、新たな担い手の確保及び育成が必要となっている。

3 普及活動の経過

(1) 安定出荷と出荷期前進化

個々の生産者の出荷本数および管理方法を調査した。生産管理方法にばらつきが大きく、生産力に影響していると思われた。出荷反省会等で実態を報告し、優良事例を紹介することで、技術統一を支援した。また、調査で把握した技術力の高い生産者のほ場や作業内容を記録し、生産者と共に「君津のカラー生産マニュアル」の作成に取り組んだ。

6月に品種登録出願された新品種「千葉C2号」は早生性であり、出荷期の前進化が期待されている。市場出荷デビューに向けて、愛称募集の周知や現物の展示手配を行い、需要拡大へのPR活動を支援した。

(2) 新規就農者の定着支援

平成31年3月に竣工した新規就農者等研修施設「カラーの里」の研修生へ、主に栽培技術や営農計画の作成を支援した。また、関係機関と生産者組織との支援体制の検討会を開催し、役割分担や研修内容を決めた。

就農して間もない新規就農者には、カラー生産が軌道に乗るよう、早期の病害虫防除実施や、経営改善資金計画作成をまめな巡回により指導した。

4 普及活動の成果

(1) 安定出荷と出荷期の前進化

各ほ場を定期的に巡回し、一部のほ場で発生した問題をいち早く確認、産地全体へ発信することで、早期対応ができた。個人の出荷状況を把握することで、産地が抱える問題点や波及すべき情報が明らかになった。マニュアルの作成により、産地の生産管理の指標とすることができた。

「千葉C2号」の令和3年秋デビューが決まり、本格的に準備が始まった。産地、県のプロジェクトチーム及び関係機関が協力して生産・販売体制の構築に向け動き出した。展示会やトップセールスにて、愛称募集やPR活動を積極的に実施した。

(2) 新規就農者の定着支援

重点的な現場巡回で、生育や病徴など株の変化へ早期発見と対策を支援することができ、新植後の株は順調に生育し、成株へ近づいている。

支援体制の検討会では、農業事務所および関係機関、生産組織が協力して、それぞれの役割を明確にし、互いに必要なことを整理することで、より専門的な支援を実施することができた。



写真1 新規就農者の新植ほ場（2年目）



写真2 マニュアル作成のための選花作業見学



写真3 展覧会での「千葉C2号」PR



写真4 大田市場での君津市のトップセールス

5 今後の発展方向と課題

産地の維持発展を目標に、今後も技術支援および産地の状況調査と分析に基づいた技術支援及び人材育成を継続する。産地の課題を把握する他、技術や管理等の優良事例を見つけ、生産力の底上げに繋がる情報を提供する。

「千葉C2号」のデビューに向けた現場での準備として、消費者が使いやすい出荷規格が作成できるよう、支援を行う。

「君津のカラー栽培マニュアル」は、生産者や関係機関と共に改訂を重ね、栽培管理の他、地域の歴史やカラー導入経緯など、新規就農者も馴染みやすいものを目指す。

今後は新規就農者が目指すカラー生産に合わせた指導ができるよう、経営モデルを複数作成して産地への定着を促し、産地の発展を目指していく。

6 担当

南部グループ・中央グループ

7 協力機関

君津市農業協同組合、君津市、農林総合研究センター暖地園芸研究所野菜・花き研究室、農林水産部流通販売課首都圏マーケティングセンター